

台風接近時の避難行動と地域活動に関するアンケート結果のご報告

このたびはアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

多摩市内で福祉やボランティア活動等をされている関係者 149 名の皆さまからご回答をいただき、台風接近時の避難への備えや防災意識、地域活動への関心について調査を行いました。

【回答者について】

- ・回答者数：149 名
- ・50 代以上の方が約 8 割
- ・女性 58.4%、男性 40.3%
- ・災害ボランティア経験がない方：約 75%

【わかったこと①】

「自分にも影響があるかもしれない」と考えることが避難準備につながる。

避難準備を行っていた方は、

「台風の危険性を意識している」

「防災情報をよく確認している」

「家族や知人と連絡を取り合っている」という特徴がありました。

⇒避難のためには、避難所を知っているだけでなく、「自分にも被害が起こるかもしれない」と考え、情報を集めることが大切であることがわかりました。

【わかったこと②】

多くの方がテレビや NHK を活用

よく利用された情報源は次のとおりでした。

1 位 NHK ニュース・防災（66%）

2 位 テレビ（64%）

3 位 Yahoo!防災速報（35%）

4 位 多摩市ホームページ（32%）

5 位 気象庁（31%）

※多摩市公式 SNS は 15%でした。

【わかったこと③】

地域活動に関心が高い人は「つながり」を大切にしている

地域活動やボランティア活動への参加意欲が高い方ほど、

「家族や近所の方との声かけ・確認を行う」

「避難所について理解している」

「避難所生活への不安や課題にも関心がある」という傾向がみられました。

⇒防災への関心は、地域活動への参加意欲ともつながっていることがわかりました。

【地域活動への関心は3つのタイプ】

①低関心型：地域活動やボランティアへの関心が比較的低い方

②情報期待型：情報提供には関心があるが、活動参加は様子を見ている方

③高関与型：地域活動や防災研修などに積極的に参加したい方

⇒参加意欲に応じた情報提供や活動機会づくりが重要であることがわかりました。

【今後に向けて】

今回の調査から、避難行動を促すためには、

「危険情報をわかりやすく伝えること」

「防災情報を入手しやすくすること」

「家族や地域で声を掛け合うこと」が重要であることがわかりました。

また、避難所や災害ボランティア活動について知る機会を増やすことが、地域活動への参加促進にもつながる可能性があります。

今回の調査では、「情報を集めること」「周囲と確認し合うこと」が避難への備えや地域活動への関心につながるということがわかりました。今後も皆さまとともに、日頃からできる防災・減災の取り組みを進めてまいります。

多摩市社会福祉協議会多摩ボランティア・市民活動支援センターでは、今後も防災に関する情報発信や研修、地域活動の紹介等を通じて、市民の皆さまとともに地域の防災力向上に取り組んでまいります。

ご協力いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。

令和8年6月19日

多摩ボランティア・市民活動支援センター運営委員会委員長

国土舘大学防災・救急救助総合研究所 教授

永吉 英記